



改憲発議許さない! 守ろう平和といのちとくらし 2022 憲法大集会に参加して

憲法施行から75年、5月3日に3年ぶりに有明防災公園で開催された集会に代田九条の会を代表して行ってきました。主催者発表で1万5千人、各地の九条の会、労組、年金者組合、市民連合などなど、いろんな旗が翻るなか始まりました。

主催者の実行委員会の藤本泰成さんのあいさつに続いて、ウクライナ特別決議が菱山南帆子さんより読み上げられ、拍手で採択されました。政党からは立憲民主党の奥野総一郎国対委員長代理、日本共産党志位和夫委員長、社民党福島瑞穂党首があいさつ、れいわ新選組の榎淵万里衆議院秘書が紹介されました。

スピーチは憲法審査会について大江京子さん、ジェンダーの視点から小川たまかさん、沖縄・日米地位協定の問題で高嶋伸欣さん、貧困・労働問題から竹信三恵子さん。

市民連合の中野晃一さんの連帯あいさつ、米山淳子さんの行動提起に続いて「HEIWAの鐘」合唱で終了しパレードに出発しました。

参加者はそれぞれの思いのプラカードを持ち、途中実行委員会で用意した「#憲法改悪に反対します」

「守ろう平和・いのち・くらし」のプラカードを一斉にかかげてアピールしました。

今ウクライナではロシアの侵略戦争で多くの命が失われ、700万を超える人々が国外に逃れ難民となっています。世界が団結して「ロシアは侵略をただちに止めろ」「国連憲章を守れ」の声を上げ続けることです。日本も連帯していくこと。この危機に乗じて9条は無効、軍事費をGDPの2%に、核共有すべき、敵基地攻撃能力などと改憲勢力の大合唱です。今本当に日本がすべきことは、9条を守ること、紛争を武力ではなく話し合いで解決するという憲法の本質、国連憲章に則った外交、核を使わせない、核廃絶を世界に訴えていくことだと思います。集会に参加したみんなの総意だと感じました。参議院選挙で改憲勢力に3分の2の議席を取らせてはなりません。

最後に代田九条の会の旗を掲げていたら声をかけられました。長谷川順一さんという方で、亡くなられた高岡岑郷さんとご一緒したことがあります。嬉しい出会いでした。

(代田4丁目・萱野 幸子)



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、
「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～
+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

ウクライナでの動きを考える

大手メディアはこぞって、「何をやるかわからない」プーチン大統領の狂気への恐怖を、戦禍に苦しむウクライナ市民への同情と抱き合わせであおっています。その結果、世論調査では軍備拡張・憲法改定への支持だけでなく、コロナ禍対応・円安対応など明らかな失政で国民を苦しめる岸田内閣の支持率までも上昇している…「欲しがりません、プーチンに勝つまでは」と言わんばかりに。今こそ、頭を冷やすべき時です。

ロシアによるウクライナ侵攻の最大の理由が、その NATO 加盟阻止であることにまず間違いないでしょうが、ちょっとこの戦争を、国際関係を離れたロシア人の目で見てください。

プーチンは、ロシア語とロシア正教を共有する人々による「ルースキー・ミール (ロシア世界)」((わかりやすく言えば、ソビエト連邦あるいはロシア帝国の理想的な形)の実現を打ち出しています。いまやロシアの GDP は韓国に抜かれて世界第 11 位、ロシア人、ロシア文化の存在感も薄れる一方です。地に落ちそうな誇りを蘇らせるプーチンの構想に、国民が共感するのは当然でしょう。

ウクライナはこのルースキー・ミールの文化的・精神的な要となる土地です。ロシアという国の原点と言えるキエフ大公国 (9~12 世紀) の中心がキエフ (キーウ) であり、またロシア正教は同国で誕生したからです。

この大切な場所を、西側 (ナチスという言葉も使っています) の「侵略」から守らなければならない—これが侵攻の「大義」であり、ロシア正教会のトップ・キリル総主教も、これを支持しています。

こうして宗教的なお墨付きも与えられた侵攻を、たとえ世界が暴挙と呼ぼうとも、ロシア国民が正しい「軍事作戦」と信じて支持することに、なんの不思議もないでしょう。ただし、ロシア軍による残虐行為なども報じられる中では、メディア統制による情報操作によってその支持が維持されていることも事実です。

このように視点を変えてみると、プーチンの判断・行動が、イメージされるような地政学的・経済的戦略、あるいは権力欲・支配欲ばかりに基づいているわけではなく、私たちにも理解可能な理念も伴っているのだということがわかります。一方で、独裁者ゆえにその決断・行動には法や一般常識による歯止めがきかず、冷静な損得の計算を何らかの理由で誤った場合 (予想外に長期化した今回の侵攻はそのケース? 核兵器使用についてはどう判断?) は狂気にも見えるということではないでしょうか。

さて、ここから次のような教訓が得られると思います。

第一に、「理不尽な」不慮の攻撃を防ぐために最も大切なのは、軍備拡張、核兵器配備、敵基地攻撃能力の整備、軍事同盟への参加・連携強化など、相手に「自衛」という言い分を与えてしまうような危険な行動をとらないことである。

第二に、一見穏やかで美しい理念も戦争の正当化に使われ、いかなる戦争も国民には必ず「自衛」と喧伝される。

第三に、この 21 世紀、そしていったんは自由を標榜した国にあっても、直ちに強権による情報操作が行なわれうる。

わが国の「報道の自由度」ランク (21 年度) は世界 180 カ国中 71 位、政府によるメディアへの日常的な圧力が指摘されており、冒頭述べたように、すでに戦争容認へのプロパガンダが始まっているようにもみえます。ウクライナ/ロシアの状況を冷静に見定めつつ、私たちが戦争に巻き込まれないよう、自ら戦争を始めてしまわないよう、健全な世論の力を発揮しなければなりません。

(梅丘 1 丁目・真藤 一彦)

集会等の紹介

**以下の案内があります。

今後の状況によっては中止もありますので、ご注意ください。

5 月 16 日 (月)・23 日 (月)・30 日 (月) 18:30~19:30

『大軍拡とめろ! 官邸前月曜連続行動』

(#官邸前月曜連続行動)

場所 : 首相官邸前

呼びかけ: 戦争させない・9 条壊すな! 総がかり行動実行委員会

5 月 29 日 (日) 14:00~ 伊藤 真氏講演会 (弁護士・伊藤塾塾長・九条の会世話人)

「平和憲法の破壊は許さない! 憲法と私たち」

場所: 東京芸術センター21 階 天空劇場

(足立区千住 1-4-1: 北千住駅西口から徒歩 7 分)

主催: 「千住九条の会」「九条の碑を建立する会」 資料代: 500 円

協賛: 東京民医連東部東葛ブロック

参加ご希望の方は事前にご連絡をお願いいたします。連絡先: 090-6953-7144 (中田)

